

平成26(2014)年度

# 年次報告書



日本橋学館大学

# 平成26年度年次報告書

## 目 次

1. 建学の精神	2
2. 沿革	3
3. 学事関係	4
4. 教育研究組織	4
5. 法人役員・評議員・教職員の概要	4
6. 教育活動	5
6-1 教育課程	
6-2 3学科の教育目的	
6-3 クロスオーバー履修制度	
6-4 少人数教育	
6-5 初年次教育	
6-6 「ゼミナール」の目的と目標	
6-7 教職課程	
6-8 学芸員課程	
7. 研究活動	10
7-1 教員の研究業績	
7-2 研究・委員会活動	
7-3 センター活動	
8. 学生	11
8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数	
8-2 留学生支援	
8-3 支援制度	
8-4 健康相談、心的支援、生活相談等	
8-5 就職・進学支援	
8-6 卒業生の進路	
9. 学生のクラブ・同好会活動等	17
10. 社会的活動	17
10-1 地域貢献センター	
10-2 大学コンソーシアム東葛	
10-3 図書館関係	
10-4 出張授業・講義体験	
10-5 地域における活動	
11. 募集活動	20
11-1 「大学説明会」の開催	
11-2 学長による高等学校訪問	
11-3 本学専任教員による高等学校訪問	
11-4 オープンキャンパスの開催	
11-5 入学試験の実施	
12. 管理運営	22
12-1 校地、校舎等の面積	
12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要	
12-3 管理運営体制	

## 1. 建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が「質実穩健」という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この「質実穩健」は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第1条に、「本財団は、質実穩健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とする」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第2章第3条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穩健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に十分に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の4年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第1章・総則の第1条（目的）には、次のように記されている。

日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穩健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」〈質実穩健〉は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、〈質実〉とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、〈穩健〉とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定義から出発して、最終的には〈質実穩健〉の現代的意義を、次のように定義することとした（平成19（2007）年7月18日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穩」は、心の有り様が「穩」やか、安らかなこと。「穩」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、〈質実穩健〉な人材の育成に要する「教育内容」として、〈質実〉であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、〈穩健〉であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を2本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成21（2009）年4月より、本学は「建学の精神」である〈質実穩健〉の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させている。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」

を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」（社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」）を培うことを目指している。

## 2. 沿革

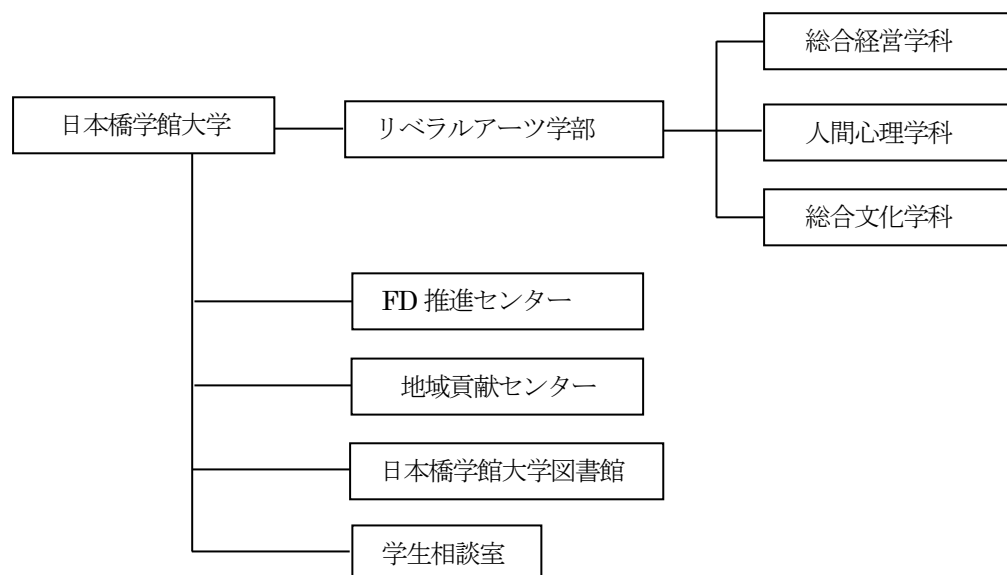
「建学の精神」でも語られているように、本法人は 100 年を越える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

明治 37(1904)年	(社)日本橋区教育会に対し日本橋女学校(本科定員 140 名、修業年限 4 年)の設立認可
明治 38(1905)年	日本橋蛸殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穩健』の教育方針訓示
明治 38(1905)年	5 月 1 日、第一幼稚園舎で授業開始(創立記念日の起源)
明治 39(1906)年	高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校(4 年制)に組織変更認可(当時、東京府下の高等女学校は府立 4 校を含めて 7 校)
明治 43(1910)年	柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限 5 年、定員 400 名に変更
大正 4(1915)年	財団法人日本橋女学館設立認可
昭和 22(1947)年	学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる
昭和 23(1948)年	私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称
昭和 26(1951)年	財団法人日本橋女学館より学校法人日本橋女学館に組織変更認可
昭和 30(1955)年	創立 50 周年記念事業実施
昭和 40(1965)年	創立 60 周年記念式典(秩父宮妃ご来臨)
昭和 54(1979)年	市川学校園研修センター(寄宿舎、テニスコート、グラウンド)完成
昭和 61(1986)年	日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員/秘書科 100 名・英語科 100 名
昭和 62(1987)年	日本橋女学館短期大学開学(初代学長:角井 宏)
平成 7(1995)年	創立 90 周年記念式典
平成 11(1999)年	日本橋学館大学設置認可。入学定員/人文経営学部人文経営学科 250 名
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学(初代学長:小谷津孝明)
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式
平成 13(2001)年	日本橋女学館短期大学閉学
平成 16(2004)年	日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を 3 学科(人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科)に組織改組
平成 17(2005)年	創立 100 周年記念式典
平成 18(2006)年	第二代学長:横山幸三 就任
平成 21(2009)年	日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部に変更。3 学科(総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員 225 人)を設置。教職課程・学芸員課程を設置。
平成 23(2011)年	入学定員 150 名に変更
平成 24(2012)年	第 3 代学長:北垣日出子 就任

### 3. 学事関係

- ・平成26年4月5日 入学式（新入生59人）
- ・平成26年4月7日～9日 ガイダンスウィーク  
(履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等)
- ・平成26年4月10日 前期授業開始
- ・平成26年5月1日 創立記念日
- ・平成26年7月25日 前期授業終了
- ・平成26年9月12日 後期授業開始
- ・平成26年10月26日・27日 柏学祭
- ・平成27年1月10日 後期授業終了
- ・平成27年3月20日 第12回卒業式（卒業生80人）

### 4. 教育研究組織



### 5. 法人役員・評議員・教職員の概要 (平成26年5月1日現在)

#### [役員]

職名	氏名	寄附行為上の選任条項
理事長	青木 徹	第7条 第1項 第1号
副理事長	山本 泰人	第7条 第1項 第2号
副理事長	小田原 榮	第7号 第1項 第2号
常任理事	北垣 日出子	第7条 第1項 第1号
常任理事	宗像 諭	第7条 第1項 第3号
常任理事	和田 靖之	第7条 第1項 第3号
理事	三田 芳裕	第7条 第1項 第2号
理事	樋口 君子	第7条 第1項 第4号
理事	岩山 康之	第7条 第1項 第5号
理事	石坂 眞一	第7条 第1項 第5号

理事	大村 泰三	第7条 第1項 第5号
理事	小山 勲	第7条 第1項 第5号
理事	川邊 寛子	第7条 第1項 第5号
監事	金澤 正公	第8条
監事	田中 宏幸	第8条

### [評議員]

- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 1 号 (法人の職員) —— (4 名)  
北垣日出子、宗像 諭、和田靖之、津川祐一
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 2 号 (卒業生) —— (3 名)  
樋口君子、宮田栄子、菌部幸子
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 3 号 (理事会選出) —— (4 名)  
石坂眞一、大村泰三、小山勲、川邊寛子
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 4 号 (学識経験者) —— (16 名)  
青木 徹、山本泰人、小田原榮、三田芳裕、岩山康之、宮入正英、服部一枝、松井巖司、廣田忠勇、清水千枝子、渡辺 昌、木屋幸蔵、池木 清、中村庄八、山田徳兵衛、須長隆一

### [専任教職員]

大学教員：32 名    大学事務職員：18 名 (嘱託除く)  
 高校教員：24 名    高校事務職員：6 名  
 中学教員：9 名    中学事務職員：5 名  
 法人本部事務職員：1 名  
法人合計：95 名

## 6. 教育活動

### 6-1 教育課程

平成 26(2014)年度に教育課程の改定を行ったため、本年度より、二つのカリキュラムが並行して運営されることになった。両カリキュラム共、1 学部 3 学科体制 (リベラルアーツ学部・総合経営学科/人間心理学科/総合文化学科) で実施されている。共通科目、専門科目および年間修得制限単位数に変更が生じているが、カリキュラム・ポリシーの主な変更は、共通科目における英語教育と基礎教養のさらなる強化を目指した点にあり、専門科目の目的や趣旨は旧カリキュラムから変更していない。そのため、下記の「教育課程編成の概要」においては、主に共通科目について、変更点を明記する。

#### 教育課程 (学部・学科の構成) [新・旧カリキュラム共通]

現カリキュラム (リベラルアーツ学部) — 平成 21(2009)年度に改定された教育課程。  
 総合経営学科  
 人間心理学科  
 総合文化学科

学生は入学時から各学科に所属するが、2 年次終了時または 3 年次終了時に希望学科の転科試験に合格した場合、転科することができる。本年度末には 4 名の転科希望者がおり、3 名が合格した。

教育課程編成の概要

共通科目 [旧カリキュラム]	基礎科目 教養科目 キャリア科目 外国語科目 スポーツ健康科目	補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む  1年次必修(第1・第2外国語) 1年次必修を含む	
共通科目 [新カリキュラム]	英語 論理的日本語表現 プレゼンテーション アクティブワーク リベラルアーツ基礎  キャリア スポーツ・健康 情報	1・2年次必修  人文科学/社会科学/自然科学/外国語/総合, 所属学科指定科目(必修)を含む 1年次必修を含む 1年次必修を含む 1年次必修を含む	
専門科目 (各学科)	導入的な科目 各専門の中心科目 発展的な科目	1年次 2~4年次 3・4年次	クロスオーバー履修 (他学科も履修可能)
	ゼミナールI~IV 卒業研究	1~4年次必修 4年次必修	

卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則 60 単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

卒業に必要な最低単位数[旧カリキュラム]

	総合経営学科・総合文化学科	人間心理学科
共通科目	8 (必修)	8 (必修)
自学科の専門科目	72 (内、必修 20 を含む)	74 (内、必修 22 を含む)
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目 (注)	46	46
合計	126	128

卒業に必要な最低単位数[新カリキュラム]

	総合経営学科・総合文化学科・人間心理学科
共通科目	28 (内、必修 18 を含む)
自学科の専門科目	64 (内、必修 14 を含む)
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目 (注)	34
合計	126

(注) 両カリキュラムとも、クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

#### 履修制限単位

	1・2・3 学年	4 学年
旧カリキュラム	54 単位	制限なし
新カリキュラム	42 単位	44 単位

(注) 新カリキュラムでは特に探求型授業に力を入れており、これまで以上に予習・復習が多くなるため、無理なく計画的に履修が行えるよう、各学年における上限単位数を旧カリキュラムと比べ少なく設定している。

本学で、指定科目を履修することによって取得できる資格は、次のとおりである。

#### 取得できる資格

資格	主たる対象学科
秘書士、上級秘書士、上級秘書士(国際秘書)	総合経営学科
情報処理士、上級情報処理士	
カウンセリング実務士	人間心理学科
認定心理士	
中学校教諭一種免許状（英語・国語・社会）	総合文化学科のみ
高等学校教諭一種免許状（英語・国語・公民）	
学芸員	全学科（クロスオーバー履修）

### 6-2 3 学科の教育目的

#### 【総合経営学科】

企業経営の基本となる経営管理・会計・秘書・ITや、近年課題となっている健康・スポーツなどについて、理論的・実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てられる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠なITスキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人の基礎力を育成する。

#### 【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築ける人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育てる。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

#### 【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができるような人材を育成する。

### 6-3 クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度があり、幅広い教養人育成のために設けられている。この制度は、開学以来のものであり、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の自由な履修・単位取得(卒業要件に算入)を認めている。



#### 6-4 少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているため、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。履修者数の上限は、次のように設定している。

履修者数の上限（原則）

科目区分	履修者数の上限
情報機器科目	30人
演習・実習科目	30人程度
講義科目	60人程度

#### 6-5 初年次教育

平成15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、「ゼミナールⅠ」（1単位・必修）において専任教員による指導を充実させてきた。ここでの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員1名につき8名前後の学生を対象として行われる。具体的活動としては、履修指導、基礎学力の育成、図書館オリエンテーション等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。（下記6-6参照）

外国語の履修に関しては、新カリキュラムよりグローバル言語としての英語をより重視し、第1外国語科目（必修科目）として設置している。クラスは入学時に行う基礎力テストの結果に基づき、習熟度別に編成している。また授業は全てネイティブもしくはバイリンガルの教員が週4回授業を行うことで、各学生の実力とニーズにあった英語力の充実を図っている。さらにその他の言語修得を目指す学生には、第2外国語科目としてフランス語・ドイツ語・中国語を選択科目として用意しており、幅広い機会を設けている。

また、初年次教育につなげる前提として、入学前教育を行っている。これは入学予定者に課題作文を課し、提出された作文に対して、専任教員が指導・相談を行うものである。

#### 6-6 「ゼミナール」の目的と目標

「ゼミナール」は、少人数クラス編成によって専任教員による丁寧な指導がなされており、1年次から4年次まで通年の必修科目となっている。その目的と目標は以下のとおりであるが、1年次と2年次には、学習面に加えて大学生活全般にわたる指導も行い、3年次と4年次には、「卒業研究」につながる専攻分野の教育を主として行っている。

各年次のゼミナールにおける目的と目標は、以下のとおりである。

ゼミナール	目的	目標
Ⅰ (1年次)	大学における学習活動の基礎を作る	新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 レポートの作成
	学習習慣の定着化	意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢
	コミュニケーション能力を培う	教員や友人との信頼関係の構築
	自己表現力を培う	自己紹介などの自己表現練習
Ⅱ (2年次)	専攻分野の選択へ向けた準備	専攻分野の把握と自己の興味の確認
	問題解決能力の基礎を培う	問題点の指摘
	社会生活を営むための姿勢を培う	社会常識の理解、実践

Ⅲ (3年次)	専攻分野の研究の基礎を培う	専攻分野の基礎の理解 専攻分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成
	将来を展望する	進路と人生の目標の探求
Ⅳ (4年次)	専攻分野に対する深い理解	専攻分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成
	将来を展望する	進路についての明確な目標を持つ

このような目的・目標を達成するために、ゼミナール担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

- ・学生が履修科目を選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
- ・履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
- ・各種資格取得を求める学生への支援
- ・学生の進路に関する、キャリアセンターと連携した指導
- ・大学からの必要に応じた学生への連絡
- ・学生の個人的なさまざまな相談・指導

## 6-7 教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21(2009)年度より運用を開始している。

- ・教育実習、介護等体験、教員就職支援などの必要な活動について随時準備を進め、学年ごとに定期的に年数回のガイダンスを実施し、指導にあたっている。
- ・各学期終了後に「履修カルテ」を提出させ、学生自身による振り返りとともに、教員による指導の一助としている。
- ・教職課程の登録は、2 年次進級時に行う。1 年次には、全学科の共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記 3 科目は「教職に関する科目」に算入される。

### 教職課程の設置学科および取得可能な免許状

総合文化学科	中学校教諭一種免許状 (英語) 高等学校教諭一種免許状 (英語)
	中学校教諭一種免許状 (国語) 高等学校教諭一種免許状 (国語)
	中学校教諭一種免許状 (社会) 高等学校教諭一種免許状 (公民)

### 教職課程の履修要件(注)

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学一種	学士の学位を有すること	20 単位	31 単位	8 単位	59 単位
高校一種		20 単位	27 単位	16 単位	63 単位

(注) 教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則 66 条 6 により「暮らしのなかの憲法」(旧カリキュラム) / 「憲法」(新カリキュラム)、「スポーツ実技 I・II」「外国語 (1 科目)」「情報機器の操作 I・II」の修得が必須となる。また中学一種の取得のため

には「介護等体験」が義務づけられる。

## 6-8 学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21(2009)年度より運用を開始している。

主として総合文化学科に置かれている正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格を取得できるシステムを採用している。総合経営学科および人間心理学科の学生も、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

- ・定期的に年数回のガイダンスを実施し、指導にあたっている。
- ・学芸員課程の登録は2年次に行う。
- ・学芸員資格の取得に必要な科目は、以下の①必修科目および②選択科目の両方である。これらの科目はすべて卒業単位に算入できる。

① 必修科目 (博物館法施行規則1条1に定める「博物館に関する科目」として以下の必修科目を設置している)

2011年度までの入学者(15単位)	2012年度以降の入学者(19単位)
生涯学習論	生涯学習論
博物館概論	博物館概論
博物館経営・情報論	博物館経営論
博物館資料論	博物館資料論
博物館実習	博物館資料保存論
視聴覚メディアと教育	博物館展示論
学校と教育の歴史	博物館情報・メディア論
	博物館教育論
	博物館実習

② 選択科目

「文化史」「美術史」「民俗学」の3分野(総合文化学科の専門科目および全学科の共通科目として設置)のうち、2分野以上から8単位以上の選択科目を修得。

## 7. 研究活動

### 7-1 教員の研究業績

本学専任教員の研究業績については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

総合経営学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#keiei>

人間心理学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#shinri>

総合文化学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#bunka>

### 7-2 研究・委員会活動

平成 26(2014)年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

- ・『紀要』第 14 号を刊行した(原著論文 3 点、研究ノート 5 点、報告資料 2 点、その他 1 点)。
- ・科学研究費補助金(日本学術振興会交付分)の交付を受けた研究は次のとおりである。〈研究代表者・五十音順に記載〉

① 「南アジアにおける密教の展開 —『ヴァジュラダーカ・タントラ』原典研究—」 研究代表者：杉木 恒彦教授(2012年度から継続)

- ② 「親子相互作用査定尺度 JNCATS に基づく次世代センシティブ支援ネットワークの構築」 研究代表者：寺本 妙子准教授（2012 年度から継続）
- ③ 「SWAP-200 の日本語版作成と日本における有用性の検証研究」 研究代表者：鳥越 淳一准教授（2013 年度から継続）
- ④ 「児童・生徒に対する懲戒と手続制度の在り方に関する研究」 研究代表者：山田知代講師（2014 年度新規採択）

### 7-3 センター活動

平成 26(2014) 年度の FD 推進センターにおける活動は以下のとおりである。

- ・「FD 講演会」を平成 26 年 6 月 18 日に「アクティブラーニング実践演習」という演目で、鳥越 淳一准教授のコーディネートのもと、実施した。
- ・学生を対象に、開講期間を通して「WEB アンケート」を実施した。
- ・教職員を対象に「授業見学」を前後期各 2 週間、実施した。
- ・教員を対象に、担当科目の「授業実態調査」を前後期に行った。

## 8. 学生

### 8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成 26 年 5 月 1 日現在

学部・学科	入学定員	編入 学定員	収容 定員	在籍 学生 総数	在籍学生数				
					1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
					学生数	学生数	学生数	学生数	
リベラルアーツ学部	総合経営学科	65	5	300	124	18	24	29	53
	人間心理学科	40	5	170	100	16	27	25	32
	総合文化学科	45	5	235	110	25	27	30	28
合 計	150	15	630	334	59	78	84	113	

### 平成 26 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

平成 26 年 5 月 1 日現在

		志願者数 (人)	全志願者に対する 割合 (%)	入学者数 (人)	全入学者に対する 割合 (%)
	千葉県	19	24.1	12	23.5
	北海道	1	1.3	1	2.0
リベラルアーツ学部	岩手	1	1.3	1	2.0
	宮城	1	1.3	1	2.0
	福島	1	1.3	1	2.0
	群馬	2	2.5	0	0
	茨城	14	17.8	10	19.6
	埼玉	10	12.7	3	5.9
	東京	11	13.9	6	11.8
	神奈川	1	1.3	1	2.0

	長野	1	1.3	1	2.0
	鹿児島	2	2.5	2	3.9
	その他*	15	19.0	13	25.5
	合計	79	100	51	100

\*その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

## 8-2 留学生支援

入学時の留学生オリエンテーションにおいて、「留学生の手引き」を配付し、学生委員長から説明を行った。

経済的支援については、成績と登校状況の良い留学生を対象に、予算の範囲内で授業料の一部免除を行った。同時に、不登校気味の留学生には、ゼミナール担当教員と学生担当部署で連携を取り、面談等の指導を行った。

## 8-3 支援制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の第一種・第二種奨学金や、私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間団体の奨学金、国の教育ローン等外部資金の情報も学生に提供しており、充実した奨学金制度が活用されている。

なお、本学独自の支援制度は以下のとおりである。

支援の名称	備考
日本橋学館大学学生に対する住宅費補助	〈2013年度以前入学者〉遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助(年額25万円) 〈2014年度入学者〉遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助(入学年度に家賃3ヶ月分(上限20万円)) 留学生は除く
日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金	学業、出席状況、経済状況を考慮して選考し、授業料の一部を免除
日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助	入学時に住宅を賃借する際、一時金として月額家賃の3ヶ月分(上限10万円)を補助
日本橋学館大学学業及びスポーツ・文化芸術特待生	学業及びスポーツ・文化芸術の分野において特に優秀と認められた者に授業料等の一部を免除
日本橋学館大学在学学生特別奨学金	国内留学、国外留学のほか、英語に関する資格等取得した際に奨励費を支給
学校法人日本橋女学館入学金減免	本学園および中央区の縁故者の入学者対象。入学金全額または半額免除
日本橋学館大学地元高校生入学金減免	地元高校出身の入学者対象。入学金半額免除
日本橋学館大学進学者奨学金	併設校卒業の入学者対象。入学金、または入学金・授業料の一部免除
日本橋学館大学有資格者入学金減免	本学が指定した資格を有する、推薦入試合格者対象。入学金全額または半額免除

#### 8-4 健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、さまざまな相談に適切に応じられるように努めている。

なお、新入生に対しては、入学直後にガイダンスを実施し、学生生活、防災、学生相談室等についての説明を行った。防災、学生相談室については独自のパンフレットを作成し配付した。

##### ・保健室

看護師が学生からのさまざまな健康相談を受け、必要に応じて、学生相談室カウンセラーや学校医と連携を図っている。

また、新入生については、入学直後のガイダンス時に「保健調査票」を記入させ、学生の健康状態を把握し、相談時の参考資料として活用している。

##### 保健室利用者状況

所見あり ※病気、怪我などの主訴が明確な学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	計	比率 (%)	
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
1年 59人	男	5	4	6	4	0	0	4	1	0	0	24	47	17
	女	2	4	10	2	0	1	3	0	0	1	23		
2年 78人	男	5	8	9	18	1	6	5	2	4	3	61	89	32
	女	2	4	4	8	0	2	3	2	1	2	28		
3年 84人	男	4	2	8	3	0	6	10	5	4	3	45	80	29
	女	7	6	5	2	0	7	2	2	4	0	35		
4年 113人	男	7	4	10	9	0	2	3	2	1	1	39	60	22
	女	2	2	6	6	0	0	1	2	1	1	21		
計 334人		34	34	58	52	1	24	31	16	15	11	276		100

##### 症状別

単位：件

症状・疾患名		件数	計
外科	筋肉痛	12	106
	捻挫	13	
	打撲	1	
	切り傷・擦過傷	49	
	その他	31	
内科	頭痛	39	205
	腹痛・嘔吐・下痢便秘等	61	
	咳・咽頭痛・鼻水等	50	
	発熱	5	
	その他	50	
計		311	

所見なし ※病気、怪我などの主訴が特にならない学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	計	比率 (%)	
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
1年 59人	男	0	29	5	6	0	1	10	1	0	1	53	89	22
	女	1	19	0	2	1	0	10	3	0	0	36		
2年 78人	男	3	13	2	7	0	4	18	1	0	0	48	85	21
	女	2	9	3	1	1	1	16	1	2	1	37		
3年 84人	男	5	14	9	1	2	3	13	2	3	4	56	132	32
	女	11	11	16	5	0	4	17	4	1	7	76		
4年 113人	男	2	20	10	9	0	4	12	6	3	6	72	101	25
	女	2	9	6	4	0	0	5	0	0	3	29		
計334人		26	124	51	35	4	17	101	18	9	22	407		100

### ・学生相談室

学生生活における不安・悩み・疑問などについて、心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士3人）とピアカウンセラー（非常勤の本学卒業生1人）、本学の人間心理学科所属の専任教員（1人）が、週4日交替で「学生相談室」を開室し、相談に応じている。

また、火曜日と木曜日の昼休みはサロンとして開放し、昼食をともに取る、音楽サロンを開き皆でセッションする等の活動も行っている。

学生相談室利用状況

単位：件（人）

学年 (在籍者数)	月別利用件数										計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月		
1年 59人	0	1(1)	1(1)	0	1(1)	9(2)	6(2)	6(2)	3(3)	27	
2年 78人	2(2)	7(2)	9(4)	7(3)	4(2)	6(2)	5(2)	3(1)	1(1)	44	
3年 84人	6(4)	7(3)	9(4)	6(3)	6(5)	7(3)	4(3)	2(2)	2(2)	49	
4年 113人	15(7)	14(6)	15(4)	19(7)	5(3)	7(3)	6(2)	9(4)	2(2)	92	
計 334人	23(13)	29(12)	34(13)	32(13)	16(11)	29(10)	21(9)	20(9)	8(8)	212	
保護者	0	0	0	1(1)	メール 1(1)	0	0	0	0	2	
その他	0	2(2)	0	2(2)	0	2(2)	0	4(2)	0	10	

相談内容

単位：件

	学業	進路	生活	心理	その他	合計
1年	0	1	2	16	0	19
2年	1	1	10	42	0	54
3年	0	2	7	47	0	56
4年	3	5	10	80	1	99
保護者	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	0	2	10	12
合計	4	9	29	188	12	242

学業：履修・留年・休学・研究・教職など

生活：健康・課外活動・家庭・経済など

進路：大学院・専攻・就職・人生など

心理：精神衛生・性格・対人関係など

#### ・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、週に複数回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

#### ・「学長に提案！」

「学長に提案！」という名称の提案箱を学内3箇所に設置し、学生が大学に対して持つ希望や要望などを容易に伝えることを可能にしている。

### 8-5 就職・進学支援

#### ・キャリアセンターの取り組み

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会では、求人状況、内定状況、支援講座等への出席状況の分析を行い、教授会で委員会報告を行い、本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

3年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成26年度は年間の相談・指導実績は延べ893件であった。また、「進路支援講座」(4/23, 4/24, 5/7, 5/14, 5/28, 6/20, 6/25, 7/9, 7/16, 10/1, 10/15, 10/22, 11/12, 11/19, 11/26, 12/3, 12/10, 12/17, 1/7, 2/26, 2/27) 計21回実施(学内合同企業説明会2回含む)。出席学生状況とその感想記録、SPI模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料としている。

上記に加えて、3,4年生を対象にキャリアカウンセラーによるキャリア相談を実施し、延べ89名の学生が利用した。また4年生を対象にハローワークのジョブサポーターによる就職相談(長期休暇期間を含む)を毎週2回学内にて開催し、延べ266名の学生が利用した。さらに、保護者向けに「保護者対象進路個別相談会」を6月14日(土)に実施した。平成26年度は56名が就職希望し48名が内定した。

#### ・キャリア教育の充実

文部科学省の大学設置基準の改正に合わせて、キャリア教育全体の充実を図っている。特に、1



年次より共通科目として「キャリアデザイン」科目を開講し、各学年のゼミとも連動させた。1年次の「キャリアデザイン基礎・Ⅰ」では、社会人との対話を行うワークショップ型の「ハタモク」を導入し、前期2回、後期1回実施した。社会人との対話を通して学生の話す力と自己効力感を高める効果が認められ、社会人イメージもポジティブなものに変化することで、その後の学習姿勢や大学生活の充実を通して将来のキャリアを考える機会となった。2年次の「キャリアデザインⅡ・A」は、地域社会や地域で活動する社会人との交流などを含め、毎回グループ討議やワークを多く取り入れたアクティブラーニングによる自己表現力を高める内容となっている。3年次（4年次）では就職環境の理解と活動・面接対策等を指導する実践編「キャリアデザインB・C」を配置している。また、2・3年次を対象に専門科目として「インターンシップ」を配置し、平成26年度は25名が参加し、最終回では1,2年生を対象に報告会を行った。

## 8-6 卒業生の進路（平成26年度）

卒業生数		内 訳						
		就 職 希 望 者			進学	アルバイト	帰国・結婚	その他
		内定者	活動中	計				
男性	56	35(88%)	5(12%)	40(100%)	2	4	3	7
女性	24	13(81%)	3(19%)	16(100%)	1	4	0	3
合計	80	48(86%)	8(14%)	56(100%)	3	8	3	10
学科人数	就職希望者			内 定 企 業 名 ・ 進 学 校 名				
	内定	活動	計					
総合経営 41	26	2	28	建設：(株)ティー・エス・ティー、(有)ライトニングFAT、(株)トヨタ工業 製造：(株)ATOMS、(株)日本食研、当矢印刷(株)、(株)ゼネラルアサヒ 電気・ガス：(株)東京ガスオールワンエナジー 情報・通信：日本融智(株)、日本企画(株)、(株)ツアーバンキングシステム、(株)ファングラー、(株)JCOS 運輸・郵便：(株)エコ配 卸売・小売：三和エナジー(株)、(株)ユニマツライフ、千葉日産(株)、(株)ノジマ、橋本貿易(株)、RANTON(株)、(株)くすりの福太郎、(株)正和物産、ササキ(株) 金融・保険：東京東信用金庫、東京ベイ信用金庫 不動産：(株)レオパレス21、(株)アエラスグループ、(株)アールエイジ 専門・技術サービス：シンコースポーツ(株)、(株)世広、長谷川清事務所 宿泊・飲食サービス：(株)カフェパウルスタ、(株)クリエイト・レストランツ 生活関連サービス・娯楽：(株)オザム、(株)オータ、(株)JTB データサービス 医療・福祉：(株)ラックコーポレーション(2)、メディカル・ケア・サービス(株)、(株)ささえ愛、(社)いちいの会 複合サービス：東都生活協同組合 その他サービス：(株)マーキュリー、(株)インタークロス、(株)ボディーワークHD、(株)くらしの友、(株)インテリジェンス 公務：日本年金機構 進学（大学院）：東京学芸大（教育研究科国語教育専攻）、東洋学園大（現代経営研究科） 進学（専門学校）：日本指圧				
人間心理 21	14	3	17					
総合文化 18	8	3	11					

## 9. 学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

平成26年5月現在

体育系クラブ	人数	文化系クラブ	人数
硬式野球	36	アーティストック（美術）	14
バスケットボール	13	軽音楽	16
バドミントン	16	管楽アンサンブル（WEL 響）	4
フットサル	10	食文化研究会（SWEETS）	20
ミニテニス	5	演劇	4
陸上競技	8	気晴らし娯楽演芸研究会 （ENTERTAINMENT）	12
パワーリフティング	3	書道	5
計	91人	国際交流	0
		計	75人

### <同好会>

ダンス、剣道、エクササイズ、音楽研究、競技麻雀、ラーメン、映画研究、クリエイティビティ部

小規模大学であるため、団体数は少ないが、主に硬式野球部・パワーリフティング部・陸上競技部・バドミントン部の大会出場での活躍が目立った。

### ○柏学祭について

「翔——Catch Your Dream——」をテーマとして、10月24日（土）と25日（日）に開催された。柏学祭実行委員会企画をはじめとして、様々な団体が多彩な企画や展示を行い、活気のある大学祭となった。また、「英語スピーチ・コンテスト」や「学生による学術研究プレゼンテーション大会」、「キャリアデザイン」の授業の一環として受講生たちが招聘した柏市の様々な活動団体の参加など、画期的な試みが新たに行われた。尚、柏学祭の活性化を目的として平成24年度に設けられた顕彰制度では、来場者の投票により上位3団体が表彰され、副賞として東京ディズニーリゾートのチケットが贈られた。

## 10. 社会的活動

### 10-1 地域貢献センター

#### ・市民公開講座の実施

次のような内容の19講座を開講し(1講座開講中止)、266人の受講者があった。

平成 26 年度 公開講座一覧表

開催日	講座名	担当教員	受講人数
9/15、22、29、10/6、 10/13(月)	比較文化地域言語：沖縄語入門	又吉 弘那	5
9/24(水)	『ハムレット』の謎と魅力	安田 比呂志	16
9/25(木)	東西文化交流：浮世絵とフランス	原田 操	20
9/30(火)	太宰治「新ハムレット」	柳沢 孝子	6
10/1(水)	ドイツにおける『ハムレット』	阿部 雄一	9
10/2(木)	歌舞伎の中のシェイクスピア～「葉武列士倭錦絵」	大倉 直人	10
10/2、10/9(木)	江戸の歌舞伎～①四世鶴屋南北を中心に②歌舞伎 の所作事	大倉 直人	18
10/7(火)	ハムレットと音楽	飯森 豊水	10
10/7(火)	幕末の新聞～『江湖新聞』を中心に～	瀧川 修吾	15
10/8(水)	志賀直哉「クローディアスの日記」	佐々木 さよ	10
10/10(金)	TVの中のシェイクスピア	田中 二郎	中止
10/14(火)	インド仏教の心の哲学～大乘仏教の「唯識」思想を 考える	杉木 恒彦	27
10/18(土)	ロシア経済のいま	Gorshkov Victor	9
10/21、28、11/4、11/11、 11/18、11/25(火)	若さと健康をサポートします！～ミニテニス～	高橋 早苗	20
11/5、12、19、26(水)	原文で読むドイツ文学	阿部 雄一	8
11/6(木)	浮世絵～元祖クールジャパン～	寺嶋 哲生	29
11/13、20(木)	人間のこころの発達～親子の関係性を考える～	寺本 妙子	10
11/17(月)	精神分析的観点から見るハムレットの葛藤	鳥越 淳一	4
11/18、25(火)	芭蕉の名句～「おくのほそ道」を中心として	服部 一枝	36
12/9(火)	女子の教育	山田 知代	4

## 10-2 大学コンソーシアム東葛

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、平成23年9月から「大学コンソーシアム東葛」と改称し、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。また、東葛地域の学生が大学や専門を超えて交流し、地域とフィールドに学びあい、地域、行政、大学と連携し、まちづくりに取り組むことを目的に学生ワークショップを実施している。

## 10-3 図書館関係

### ・ほぼ月らいぶ

図書館主催の無料コンサート「ほぼ月らいぶ」の開催は1回。通算32回。今回で6回目となる柏市立柏高等学校吹奏楽部の演奏会は全部員263名が出演、聴衆約450人を前に、あまたの金賞に輝くサウンドに加え、歌あり、踊りありの熱気あふれるイチカシワールドを披露した。演奏会終了後、近隣の中学校6校（柏市第二、柏市第三、柏市立第五、柏市立大津が丘、流山市立南部）が夏のコンクールへ向けて顧問の石田修一教諭指導の下、2時間以上にわたって合同練習を行った。

No.	タイトル	開催日	動員人数
その32	柏市立柏高等学校吹奏楽部コンサート	2014年6月21日（土） 14:00～15:40	450

### ・ビブリオバトル2014

3回目となる「ビブリオバトル2014」を大学祭2日目の10月26日（日）に図書館内で開催。挑戦者は5名（2年生1名、3年生1名、4年生3名）、観客は教員や学生、一般来場者等43名。観客全員による投票の結果、チャンピオンには『新明解国語辞典；第4版と第6版』を推した廣田雄思（総合文化学科4年）が選ばれた。廣田は11月8日（土）に本学こもれびホールで行われた「2014年柏市立図書館・市内四大学図書館ビブリオバトル」に本学代表として出場、優勝した。

### ・平成26年度柏市立図書館・市内大学図書館合同企画

柏市立図書館と柏市内4大学（本学および二松学舎大学・麗澤大学・東京大学）の各図書館による合同企画展・講演会の一環として、展示・講演会を企画。合同テーマは「科学」。本学では、総合文化学科の杉木恒彦教授による講演「輪廻転生の分析—人間存在の構成をめぐるインドの前近代科学」を大学祭2日目である10月25日に聴衆約70名で行い、関連品を図書館に展示した。昨年度の台風で中止となった企画、長沼友兄氏（淑徳大学・長谷川仏教文化研究所）による講演『『論語』と渋沢栄一：社会福祉の立場から』を行った。

### ・摘水軒コレクションの展示（図書館内展示台）

肉筆浮世絵などのコレクションで名高い柏市の文化財団「摘水軒記念文化振興財団」の厚意により、5年前から貴重なコレクションの数々を図書館展示台で公開している。本年度の展示は以下のとおりである。

展示月	展示内容（作者等/作品名）
平成26年7月・8月	蠣崎波響 / 朝顔に翡翠図
平成26年9月・10月	岡本秋暉 / 月下双鴨図
平成27年1月・2月	葛斎麟江 / 風俗四美人図
平成27年3月・4月	中林竹洞 / 胡羊跪乳図

## 10-4 出張授業・講義体験

中学生・高校生を対象に、その学校に本学教員が出向き大学での学習の楽しさ、本学の教育内

容の充実と本学の良さを伝えた。

また、オープンキャンパス等でも体験講義を実施している。

- ・平成 26 年 7 月 23 日 (水) 戸板女子中・高等学校
- ・平成 27 年 2 月 17 日 (火) KTC 中央高等学院 (厚木キャンパス)

## 10-5 地域における活動

千葉県総合計画の進行管理に関する有識者懇談会、柏市教育委員会、東葛地区社会教育連絡協議会、横浜市教育委員会、板橋区いじめ問題専門委員会等の各種活動において、本学教員が講師・委員として参加した。

## 11. 募集活動

### 11-1 「大学説明会」の開催

開催日	開催時間	開催場所	参加高校
5月30日(金)	14:30~16:00	アルカディア市ヶ谷	14校
6月6日(金)	14:30~16:00	本学	12校

### 11-2 学長による高等学校訪問

県立柏・柏中央・柏の葉・我孫子・柏陵・我孫子二階堂・二松学舎附属柏・日体柏・中央学院

### 11-3 本学専任教員による高等学校訪問

千葉県	大学を中心とした東葛地区、総武線(市川や浦安)地域： 千葉商業・敬愛学園・流山おおたかの森・我孫子東・我孫子・印旛明誠・白井・松戸六実・松戸国際・市立松戸・松戸向陽・不二女子・市川東・昭和学院・市川昂・市立船橋・船橋啓明・東京学館船橋・船橋北・船橋二和・船橋芝山・船橋東・実籾・千葉英和・市立柏・流通経大附属・柏の葉・沼南高柳・東京学館浦安
東京都	23区の特に千葉寄りの地域： 正則学園・忍岡・貞静学園・郁文館・向丘・村田女子・王子総合・桜丘・飛鳥・足立・足立東・青井・足立学園・淵江・足立新田・足立西・南葛飾・葛飾商業・葛飾野・日本橋・紅葉川・江東商業・品川エトワール女子・小野学園女子・成女・堀越・稔ヶ丘・千早・大山・第四商業・NHK学園
茨城県	水戸市以南の地域： 土浦湖北・藤代紫水・筑波・取手松陽
埼玉県	さいたま市より千葉県寄りの地域 (26年度教員による訪問は無し)

### 11-4 オープンキャンパスの開催

オープンキャンパス参加者集計結果

開催日程および参加者数(受験対象者はリピーターを除く)

開催日	参加者(人数)	受験対象者(人数)リピーター除く
3月29日(土)	16名	15名
4月20日(日)	4名	4名
5月24日(土)	23名	20名
6月22日(日)	16名	12名

7月19日(土)	24名	12名
8月3日(日)	12名	10名
8月9日(土)	16名	10名
8月13日(水)	41名	17名
8月23日(土)	13名	3名
8月24日(日)	19名	8名
9月13日(土)	9名	2名
9月28日(日)	10名	3名
10月11日(土)	8名	3名
10月25日(土)	6名	1名
10月26日(日)	11名	3名
11月15日(土)	3名	2名
12月14日(日)	5名	3名
1月10日(土)	8名	5名
合計	244名	133名

受験対象者 男女比

性別	人数	割合
男	140名	57.4%
女	104名	42.6%
計	244名	100.0%

全体参加者の分類

分類	人数	割合(%)	分類	人数	割合(%)
3年	177名	72.5%	既卒	7名	2.9%
2年	41名	16.8%	その他	1名	0.4%
1年	18名	7.4%	合計	244名	100.0%

・県別参加者数

受験対象参加者

千葉県123名(全体50.4%)が最も多い。続いて東京都46名(全体18.9%)、埼玉県28名(全体11.5%)、茨城県23名(全体9.4%)。他県については、神奈川県5名、福島県4名、群馬県4名、静岡県2名、山梨県1名、新潟県1名、長野県1名、その他6名となっている。

千葉県	123名	東京都	46名	埼玉県	28名	茨城県	23名
神奈川県	5名	福島県	4名	群馬県	4名	静岡県	2名
山梨県	1名	新潟県	1名	長野県	1名	その他	6名

・通学過程の分類

全日制	167名(70.8%)	通信制	69名(29.2%)	合計	236名(100.0%)
-----	-------------	-----	------------	----	--------------

## 11-5 入学試験の実施

AO入試	9回	平成26年9月6日～年度末
推薦入試	7回	平成26年11月1日～年度末
一般入試	3回	平成27年2月4日～年度末
特待生入試	3回	平成26年11月8日～年度末
留学生入試	4回	平成26年11月29日～年度末
編入学入試	0回	—
訪問入試	0回	—

## 12. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があり、校舎面積は十分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

### 12-1 校地、校舎等の面積

比較対象	収容定員	校地			校舎		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
日本橋学館大学	780人	9,300 m <sup>2</sup>	25,783 m <sup>2</sup>	16,483 m <sup>2</sup>	5,388 m <sup>2</sup>	8,079 m <sup>2</sup>	2,691 m <sup>2</sup>

※校地・校舎ともすべて専用

### 12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

建物区分(面積)	用途	※( )内は部屋数等
校舎	1号館 (4,159 m <sup>2</sup> )	大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(8)、ゼミ室(3)、CALL教室(PC34台)、コンピュータ教室(4教室・PC120台)、和室、学習指導室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC2台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局(総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室)、会議室(2) 学生ホール(106 m <sup>2</sup> )、学生食堂(345 m <sup>2</sup> )、学生会室、用務員室
	2号館 (1,903 m <sup>2</sup> )	大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、地域貢献センター、教員研究室(1)、保健室、学生相談室
	図書館棟 (2,005 m <sup>2</sup> )	図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10台)、応接室、書庫、こもれびホール(163 m <sup>2</sup> )、教室(2)、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室
	警備室(12 m <sup>2</sup> )	受付
計 8,079 m <sup>2</sup>		
体育関連施設(1,319 m <sup>2</sup> )	体育館(1,037 m <sup>2</sup> )、トレーニングルーム(222 m <sup>2</sup> )、管理室、シャワー室 *別棟の男子更衣室(60 m <sup>2</sup> )含む	

